

参加・体験型学習(ワークショップ)実施のための人権教育教材

参加・体験型学習(ワークショップ)とは、「アクティビティ」と呼ばれる一つのまとまりのある学習活動(ゲーム的な活動や作業、対話など手法はさまざま)に取り組むことで、人権問題を頭で理解するだけでなく、心の動きを受け止め、身体を使いながらトータルに学ぶことを目的としており、単に知識を一方向的に伝達する学習方法とは異なります。

人権侵害は、地域、職場、学校など、さまざまな人がいる場で起こることが多く、それを解決するためには、知識を得るだけでなく、解決を進める態度やスキル(技能)を身につけることが必要です。そしてそれをもとに、社会における人権ルールをつくっていくことが大切であり、こうした実践的な学びのために、参加・体験型学習(ワークショップ)は有効です。

大阪府では、参加・体験型学習(ワークショップ)を進めるためのプログラムを掲載した人権教育教材を作成しています。地域、学校、職場など皆さんの身近な学習の場でご活用ください。

人権教育教材の配布を希望される方は、大阪府府民文化部人権局(TEL(06)6210-9281)までご連絡ください。

<p>● 入門ガイド 初めてのファシリテーター 経験の少ないファシリテーターがよりスムーズに学習・研修を進めることができるよう、進め方のポイントや参加者の反応に対するアドバイスなどを解説。</p>	<p>● わたしを生きる お互いのアイデンティティについて伝え、受け止めることを通じて、「人間関係」、「尊厳」などについて考える。</p>
<p>● ちがいのとびら 多様性の尊重について考える。</p>	<p>● あたりまえの根っこ 「常識」、「あたりまえ」と言われる社会意識が差別につながる場合があることについて考える。</p>
<p>● ぶつかる力 ひきあう力 対立と向き合い、どう対応していくかについて考える。</p>	<p>● ありのままのわたし 大切なあなた 就学前の子どもを中心に、その発達段階に応じ、遊びを通じた人権感覚を育むプログラムなどを紹介。</p>
<p>● 同じをこえて 「差別と平等」が非常に身近な問題であることについて考える。</p>	<p>● 見方を変える 他者との交流や新たな見方があることの気づきを通じて、人権を尊重していくための具体的な方法を身につけるきっかけとなるプログラムなどを紹介。</p>
<p>● みえない力 生活の中にある力の関係性と、それを支える構造や仕組みから差別について考える。</p>	<p>● さまざまなカタチ 性的マイノリティの人権問題があることを理解して、多様性を尊重した行動を考える。</p>

人権啓発詩・読書感想文 入選作品の紹介

大阪府及び大阪府教育委員会では、お互いの人権を尊重し、差別のない明るい社会を築くための活動の一環として、府内の小・中学(部)生を対象に、地域において人権啓発を行う民間団体で構成する「人権啓発推進大阪協議会(愛ネット大阪)」と共催で、「人権啓発詩・読書感想文」を毎年夏に募集し、入選作品の表彰を行っています。



大阪府人権啓発詩・読書感想文

検索



なんでも言える

きょうはずかしいことがあった。
でも友だちにだけ言えた。
かぞくや先生には、言えないけれど
友だちにだけわらって言えた。
やくそくもべんきょうのことも言えた。
友だちとずっとなかよくしたい。

第40回(令和3(2021)年度) 詩部門 小学校(小学部)低学年の部